

研究の成果を教育へ。

JAL社員の働き方に学ぶ授業。

稲盛経営哲学研究センターにおいてRITLABOは、研究と社会をつなぐオープンラボの役割を担っています。そこで、本誌P4、17で紹介した「JAL再生を先導した哲学・教育プラットフォーム」研究の成果を教育現場に還元するために、立命館附属校である立命館宇治高校及び立命館守山中学校の協力を得て、JAL社員の働き方に学ぶ授業案を開発、実施しました。現在の日本人にとって最も一般的な「会社や組織に所属して働く」という働き方は、生徒たちからは見えにくく、ニュースや大人たちから聞く、「長時間労働で大変そう」「自分の意見を言えず、命令に従うだけ」というイメージが先行しています。しかし実際は、労働によって社会や人々の役に立つという実感を得たり、生きがいや思いを実現し、「生きる力」を鍛えられる場でもあります。そんな企業の現場について生徒たちに理解してもらうことを目的に、教材開発を進めました。

チームワーク、お客さま視点、使命感。 「働く」を自分事としてイメージする。

「働く意味について考える」特別授業

●立命館宇治高校

立命館宇治高校では、CSL※（キャリア教育授業）担当チームの酒井淳平教諭、徳地克己教諭を中心に、リクルート『キャリアガイダンス』誌と協働し、高校1年生を対象としたCSL授業の一環として、「働く意味について考える」特別授業を行っています。

2016年の11月には、キャリア教育研究会の中で授業を公開し、多くの教育関係の方に授業を見学していただきました。

「働く意味について考える」特別授業は全3回。さまざまな事例をもとに大人たちの働く理由を考え、それをもとに自分にとっての「働く意味」を考えていきます。

この授業に対して、研究の成果をもとに開発した教材を提供。

RITLABOが提供した教材

では、パイロット、客室乗務員、整備の3つの現場について、「働く大人の事例」として紹介するとともに、社員が接するJALフィロソフィ教育の様子やJALフィロソフィについても説明。チームワークをもってお客さま視点で働き、社会人になっても学び続ける姿は、生徒たちの働くことへのイメージを鮮明にしているとともに、働くことに対するポジティブな考え方を提供することができました。

※CSL（キャリア・サービス・ラーニング）将来を考えるキャリアデザイン、自分や人の関わり方を知るソーシャルスキル、自分を社会に生かすサービスマナーで構成する、立命館宇治高校独自のキャリア教育授業。



授業で使われたスライド

スライド1



航空会社で働く人の中で、まずは客室乗務員とパイロットの仕事について説明。お客さまのために、どんな思いで、どんな工夫をしながら働いているか、具体的な事例で紹介しました。

スライド2



運航部門や客室部門に比べて整備部門の仕事とその重要性は、生徒たちにはなかなかイメージしにくいもの。だからこそこの授業では使命感をもって安全性を踏まえた定時運航を支える整備士の仕事と、その思いを伝えました。

スライド3



企業理念や JAL フィロソフィを学び、サービスの向上や働き方について、部門や職階を超えて話し合う JAL フィロソフィ教育の現場を紹介。一般社員に混ざって、社長も参加し、学んでいる様子は、生徒たちに強い印象を残しました。

授業を終えて

「誰かのために働くこと」「働いても学び続けること」の大切さを、実在の企業を扱うことで、説得力を持って伝えることができたのでは、手ごたえを感じています。この研究成果をもとに、さらに別の教材づくりもできるのではないのでしょうか。

研究に携わった RIT LABO の先生や、JAL の方に授業に来ていただけたら、生徒たちの印象にもより残るのではないかと思っています。生徒が JAL を訪問する機会があればとも思います。

酒井淳平教諭

「働く+a」のaの部分について、



立命館宇治高校のCSL担当チーム。
左から徳地教諭、高野阿草教諭、
武部恵子教諭、酒井教諭。

実際に働いている方々の様子を生徒に見せることができたのがよかったです。また、企業内の工夫や努力などは外からはわからない部分が多いので、今回協力いただけたことで、教員だけでは作れない授業ができたのではないかと思います。

徳地克己教諭

「フィロソフィ教育」講演への感想

2016年11月5日、立命館宇治高校で行われたキャリア教育研究会では、公開授業の後、稲盛経営哲学研究センター客員教授の高津正紀氏より京セラの社員教育について、RITA LABO 助教の谷口悦子より2016年3月の国際シンポジウムで発表した「JAL社員の意識・行動を変えた教育プラットフォーム」の講演がありました。参加した教育関係者の皆さんからの感想を紹介します。

- 稲盛哲学を具体的に学べ、有り難かった。JAL 再生について、教育の果たす役割が明確にわかった（面白かった）。
- JAL を含めて変わることのポイントを教えていただけたと思います。特に渦のお話はこれから立ち上がる生徒会に活用させていただきます。
- 稲盛経営哲学の根本にある「利他」という考え方は、今の高校生にも必要なことだと感じました。特に「渦の中心になれ」という考え方は、教育現場や生徒にも活かせると思います。
- JAL 再生の内情の詳細がとても勉強になりました。渦をつくる人、渦に巻き込む人、渦が渦巻く環境をつくる人の考え方に刺激を受けました。